

## 国際派診断士と外国語を巡って(9月度定例会報告テーマ)

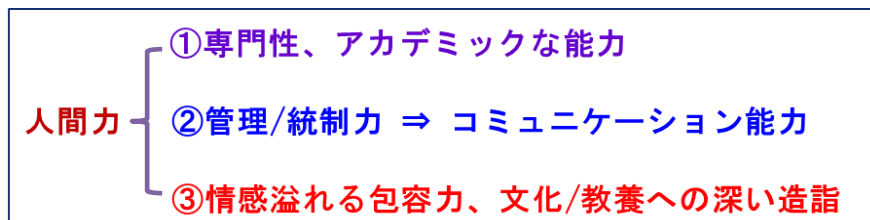
本件は9月度WBS定例会(9/15)にて、私より報告させて戴いた内容ですが、36名の方々からのアンケート回答に基づき、内容を整理させて戴きました。改めて、御協力戴いた皆様に感謝申し上げます。お忙しい中、御協力誠にありがとうございます御座いました。

回答下さった方の中で、「個人的にも関心あるテーマだが、当日は出席出来ないので報告内容を教えて欲しい」というお話がありました。報告資料はアーカイブに保存して戴きましたが、今回は資料ではお伝えし切れない部分を中心に、「コラム」へ投稿させて戴きます。

### 1. はじめに

本報告の主旨ですが、「WBSは国際派診断士の集まりだが、診断士として国際貢献に必要な要素、及び語学との関係を明らかにしよう」というものです。そのため、会員の皆様にアンケートをお願いし、「語学を巡る状況、及び国際派診断士としての課題」を回答して戴きました。

今回報告の前提は、「国内で診断士の仕事が務まること」であり、然もなければ国際的な環境で診断士たり得る筈がありません。では、国内で通用するための「必要条件」を最初に明確にする必要がありますが、私は「人間力」だと思えます。



同時に、診断士の役割も明らかにしておく必要がありますが、私は「**人や組織に働き掛け、好ましくない行動パターンを改めて貰う**」ことだと思えます。

人は慣れ親しんだ行動パターンを変えることを本能的に拒みますから、それを改めて貰うには、理屈を超えた納得が不可欠であり、「心からの信頼」なくして行動は変わりません。それを可能にするのが「**情感溢れる包容力、文化/教養への深い造詣**」だと思えます。

### 2. 我が国際経験と語学遍歴

詳しくは、アーカイブ中の「2016年9月度定例会資料」を御覧戴きますが、元々は技術屋であり、最初は石油化学メーカーの現場技術者でした。同時に、国際業務への憧憬があり、幸い20代半ばで旧ソ連、30代前半にアルジェリアで働くチャンスを得、その後はビジネスマンを志向して米国にMBA留学しました。

帰国後は別の化学メーカーに移り、欧米企業のM&A、東南アジアでの合弁や現法設立に携わり、現地駐在はしませんでした。海外関連企業の運営管理や英文契約書作成に従事して参りました。

基本的に英語がメインですが、アルジェリア時代に仏語と接点が出来、その後30年以上のブランクを経て昨年仏語を再開し、つい最近仏検2級に合格出来ました。

### 3. アンケート結果の要約

詳細データは前述の「定例会資料」を御覧下さい。図表リストを末尾に示します。

#### 3-1. 英語力の到達レベル、関連する項目

- (1) 回答者中、TOEIC スコアを開示下さった方が 29 名おり、平均スコアは 840 点と、一般的には非常にハイレベルな集団である。以前の英語教育は「読み書き」中心であり、畢竟若年層の方がハイスコアの傾向かと思いきや、年齢層による差は殆どなかった。
- (2) また、語学が好きなグループほど平均点が高く、「好きこそもの上手なれ」が成り立つようである。英語圏に限らず、海外居住年数とスコアには、強くはないものの、正の相関が見られた。
- (3) 英語の活用状況では、仕事での活用度は高いが、私的には然程でもない。具体的には、大半が英文でビジネスレターが書け、英語でネゴ出来、情報ソースに英語サイトを活用しているが、ペーパーバックでの小説購読や、字幕に頼らぬ洋画鑑賞はしていない。
- (4) 学習動機は「仕事で必要性を痛感した」ケースが最多だった。従って、本格的な英語学習は早いケースだと学生時代から、遅くとも 30 歳前後が大半であり、早い程 TOEIC スコアも高い、という明確な傾向が出ていた。
- (5) 勉強法は OJT が最多であり、市販教材やラジオ/TV 講座の活用、TOEIC・英検等資格試験の活用が多かった。意外と、英会話学校に通っていたというケースは少なかった。
- (6) 現時点での到達レベルに関わらず、殆ど全員が更なるレベルアップを望んでいる。

#### 3-2. 第二外国語の必要性、活用状況等

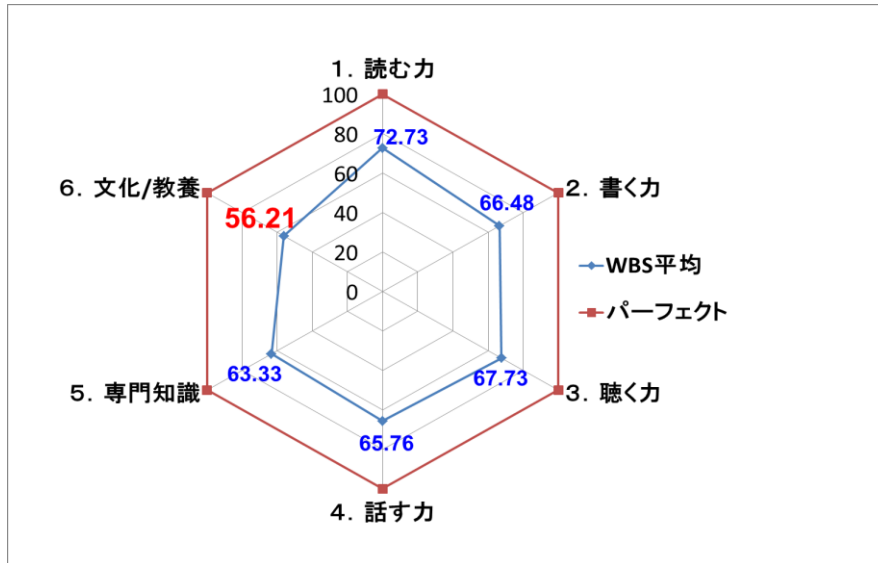
- (1) 回答者 36 名中 24 名が非英語圏での居住経験があり、現地語もそれなりに修得して来た模様である。学習内容は、単に語学だけに止まらず、文化的領域にまで及ぶ。
- (2) 最も習得者が多いのが中国語であり、学習動機は「自発的」が 15 名中 13 名おり、学習方法は独学が 10 名で最多乍ら、通学も 8 名存在する。(複数回答可とした)
- (3) 中国語以外では、フランス語(仏)、スペイン語(西)、ポルトガル語(葡)が多く、特に西葡では上級者も存在する。

注：①初級は日常会話レベル、②中級は一般会話と、読み書きレベル、③上級は専門的な会話と同時に、読み書きはネイティブレベル。

- (4) 第二外国語の位置付けとして、有用性を認める回答が多数派だったが、一部には英語を更に磨く方が重要、との意見もあった。
- (5) 但し、第二外国語の有用性は認めるが、学習には中々繋がらないのが現実である。
- (6) 各言語ともに初級レベルが多いが、英語を補完して現地交流には役立っているようだ。

### 3-3. 国際派診断士としての課題

#### (1) 外国語コミュニケーション能力の自己評価結果



上図のように、語学力(読む・書く・聴く・話す)、及び専門能力では、「読む力」を筆頭に、自己評価で65%前後のレベルだが、文化/教養面では56%と10%近く相対的に低いレベルである。

皆さん謙虚な方が多いせいか、辛めの評価になったとも考えられるが、文化/教養面では他の要素に比べて自信がない、というのが一面の真理なのかも知れない。

#### (2) 語学関連以外の課題について

これは、アンケートに「例」として記載した①～③の項目に直接回答されたケースが多かったため、多岐に亘る回答には至りませんでした。以下のとおり整理しました。

- ①異文化交流の壁を突破するには、『相手の文化を謙虚に学ぶ姿勢と、相手への受容と共感が大切。「怒らず」「焦らず」「あきらめず」【3ずの精神】が必要。上から目線は禁物』という御意見に集約される。
- ②診断士資格の「国際的知名度が低い」ことには、『資格を説明するのではなく、自分は何が出来るのかをアピールし、「論より証拠」で示せばよい』という、至極真つ当な回答が複数示された。(≡コンサルタントと名乗り、それで通す。)
- ③国際支援事例データの活用については、『WBSを母体として個別事例・経験・ノウハウを共有し、全員でレベルアップを図ればよい』という意見に集約される。
- ④その他では「国際支援業務の獲得」という問題で、「国際派診断士の属性DB編集」の提案が出された。
- ⑤また、「国際業務からの実務従事ポイント獲得」という要望も出ていた。

#### 4. 私論・国際派診断士とは

「1. はじめに」で明らかにしたように、国際派診断士の必要条件とは、国内と同等の仕事が出来ること、であり、それは「診断士としての基本的能力＝人間力」に集約されます。

そして、「人間力」の三要素の内、①専門性は国内で通用するなら問題なく、結局は②コミュニケーション能力、③文化/教養が、国際的に通用するか否かが問われます。

一方、外国語コミュニケーション能力は、3-3.(1)のレーダーチャートで示したように、語学力(読む、書く、聴く、話す)、専門性、文化/教養の6要素から成り、これは結局「人間力」と概略オーバーラップします。

また、個人的な考えですが、国際コミュニケーションに有効なのは、語学力よりも「語学センス」ではないでしょうか。(例：子供は皮膚感覚で外国語を覚えてしまう)

結局、国際(外国語)コミュニケーション能力は最終的に「人間力」の③文化/教養面の能力が重要になり、これがあってこそ「異文化対応」への備えが整う訳です。

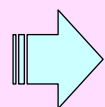
##### <私論：文化/教養について>

- (1) 知識は左脳、教養は右脳が支配的である。単なる知識は、結果を伝えるのみ。
- (2) 教養は独自の「創造・工夫」を通して身に付くものであり、感動や感銘を伴う。
- (3) 現地文化は「料理」に凝縮され、それを喜んで食べることから異文化交流が進む。

以上、纏めますと、国際派診断士として国内と同等の仕事をするためには、

**1. 語学力は必要条件だが、十分条件ではない。**  
**必要なのは「語学センス」ではないか？**  
**例：初級レベルの現地語で交流出来る能力。**

**2. 異文化の壁を越え、コミュニケーションを発展させるには、「人間力」でもある文化/教養面の能力が最終的に重要になる。**



**右脳力、実体験と感動、好奇心**  
**人懐こさ、現地文化(≒料理)を堪能**

尚、後半のディスカッションの中で「日本人としての誇りを持ち、日本の立場や歴史・文化を堂々と話せること」の重要性が提起されたことを申し添えます。

以上.

<詳細データの図表リスト>

3-1	WBS会員のTOEICスコア分布と年齢層の関係
3-2	「語学は好きですか？」への回答結果
3-3	海外居住年数とTOEICスコアとの相関
3-4	英語の活用状況(複数回答可)
3-5	実践英語を勉強し始めた動機は何でしょうか。
3-6	実践英語の勉強を本格的に始めたのは何時頃ですか？
3-7	実践英語をどのように勉強して来ましたか。
3-8	あなたは、自分の英語力に満足していますか？
3-9	あなたは英語以外の外国語経験がありますか？
3-10	非英語圏居住経験者の現地語学習状況
3-11	あなたは第二外国語学習をどのように考えていますか？
3-12	今後の第二外国語学習予定
3-13	WBS会員における英語以外の外国語の使用状況
3-14	WBS会員の外国語コミュニケーション能力の自己評価結果
3-15	語学関連以外の課題について
3-16	個別課題と改善案

詳しくは、アーカイブ中の「2016年9月定例会資料」を御覧下さい。